

2010年10月6日
株式会社パスコ

(報道資料)

準天頂衛星初号機「みちびき」の打ち上げに呼応して 道路三次元計測技術を全国展開 計測専用車両「MMS」の活用で現場作業時間を大幅に短縮、精度を向上

株式会社パスコ（本社：東京都目黒区、代表取締役社長：杉本陽一、資本金：87億円、セコムグループ、東証1部、以下パスコ）は、自動車や航空機、人工衛星を用いて収集した空間情報を処理・加工し、お客さまの課題解決に必要な地理空間情報サービスを提供しています。特に地方自治体において、道路計画から道路維持管理に用いる地図作成、定期的な調査、道路周辺施設の公共物管理まで、長年の実績とノウハウを積み上げてきました。

このたび、パスコは、準天頂衛星初号機「みちびき」の打ち上げに呼応して、走行しながら高精度な測量ができるモバイルマッピングシステム(MMS、三菱電機株式会社製)を全国に配備し、道路関連業務の拡大を目指します。

■MMSと事業の概要

MMSは、車両にGPSアンテナ、レーザースキャナー、デジタルカメラなどの機器を搭載し、走行しながら自動取得した道路周辺の三次元空間情報を用いて、高精度な道路平面図を効率的に作成できるシステムです。

パスコは、本年2月から、一部の地方自治体の道路平面図の作成にMMSを適用してきました。その実績数値から10%の経費削減、30%の現場作業期間短縮の効果を立証しています。今回の準天頂衛星初号機「みちびき」の打ち上げ成功を受け、益々衛星を活用した高精度測量手法が普及するものと判断し、パスコは全国にMMSを配備して、より多くの地方自治体からの道路関連の業務に活用していきます。

パスコは、今年度末までに提携企業を含めた全国10拠点において、MMSの配備を計画しています。

■関連する利用用途

MMSによって計測したデータを元に、標識やガードレールなど道路付帯設備のデータベース化や、道路アセットマネジメントとしての維持管理コスト削減など、多様な地方自治体向けサービスに応用することができます。

さらに、EV・ハイブリッド車のバッテリー効率を上げるために道路の勾配情報を付加したルートマップ、電柱などのライフラインデータ、観光案内用三次元コンテンツなど、民間企業への三次元データ提供サービスの展開も予定しています。

■お問い合わせ先

(報道関係から) 株式会社パスコ 広報担当 TEL:03-3715-1048

(お客さまから) 株式会社パスコ カスタマーセンター TEL:0120-494-800

以上